若者の意見を地域づくりにいかしたい

「若者の投票率が低い」。

この言葉を聞くたびに、このままで将来大丈夫なのかなと不安な気持ちになります。少子高齢化が進み、若い世代の意見がもっと政治に反映されるように、選挙権年齢が引き下げられました。しかし、投票率はのびていません。期日前投票の利用の促進、SNSの活用などいろいろな工夫はされていますが、未来を担う若い世代の意見が政治に届きにくくなっています。

私は、有権者になったら、選挙に行きたいと思っています。それは、自分の未来のためや子どものために、よりよい社会をつくる一員になりたいからです。ですが、絶対に行くとは言い切れません。なぜなら、政治のしくみや誰がどのような政策をしているのか、政治に関して全く知識がありません。友達と選挙の話をしても、誰が何をしているのか分か

荻　里音

らない、投票して何か変わるのかなど、政治に関してあまり興味がない人が多いように感じます。このように感じるのは、若者に公約が届いていないことや、投票する意味や良さが分かっていないからだと思います。大人は若者に「選挙に行こう」と呼びかけをしていますが、政治のしくみやどこに注目して選ぶとよいのか本質的なことを教えてくれる人はほとんどいません。なので、主権者教育を充実させ、小、中学生の頃から選挙のしくみや社会問題について学び、一人ひとりが社会の一員だということを実感できるように教育をすべきです。

私は、高校生の声を地域づくりに活かすというテーマで探究活動を行っています。その一環として、いろんなアイデアや思いが集まりました。一回目は市内の高校の生徒会役員、市議会議員さんが集まり、自分の高校の未来、都城の未来についてプレゼンしました。その後、グループをつくり高

校生と議員さんで、意見交換会をしました。

「都城をもっとこうしたい」「バスの本数を増やしてほしい」「遊び場所や勉強できる場所がほしい」など高校生の視点でいろんな意見がでました。意見交換のあと、議員さんから

「私たちが気づいていない高校生の視点や地域の不便さを教えてもらえて、とても参考になりました」。

と言っていただきました。そして先日、二回目の都城万博を南九州大学で行いました。高校生に加えて、大学生、中学生も参加し、より多くの人と未来に向けて考えを交換しました。

この都城万博を通して、議員さんとの信頼関係や、政治に対しての興味も高まり、議員さんと若者が一緒になって主体的に地域を良くしていこうと取り組んでいくことは、これからの私たちにとって大事なことだと思います。

市議会議員の方だけではなく、県議会議員、国会議員の方々との交流も増やしていい

けば、もっと選挙というものが身近に感じることができると思います。

また、私は選挙啓発ボランティアにも参加しました。イオンの前でチラシやティッシュを配りながら、

「投票おねがいします」。

と呼びかけました。笑顔で

「ありがとう。投票してきたよ」。

と言ってくださる人もいれば、無視をされることも多かったです。若い人達に無視される

ことが多く、若者が政治に興味をもっていない傾向があることを肌で感じました。一人でも多くの人に選挙に行ってもらいたいと思い、一人ひとりに声をかけ続けました。

若者がこうして地域の課題に関わり、自分から行動することが、少しずつ社会を変えるカになると感じます。全ての若者が選挙に興味がないというわけではありません。地域をもっと良くしたい、日本をもっと住みやすい国にしたい、と思っている人はたくさんいる

と思います。一人ひとりの良くしたいという気持ちが集まればすごく大きなものとなり、日本は変わっていけると思います。未来の自分たち、子どもたちのために住みやすい場所に進化していくことを願っています。

私はこれからも、地域の一員として自分の考えを発信し続けたいと思います。若者の声が地域に届き、誰もが住みやすいまちをつくることができるように、行動を続けていきたいです。